

1-59

総発第314号 昭和25年7月29日

内閣総理大臣 吉田 茂 殿

日本学術会議会長 亀山直人

特殊技術者の待遇改善について（申入）

本会議は、昭和25年1月23日総発第23号の4をもつて、標記のことについての希望を述べましたが、その際例示しました硝子細工工、精密機械工、研磨工、微量分析工の他ムラージュ技術者も同様な性質のものでありますから左記に留意してその待遇改善につとめ、特に職階制を実施される際には十分注意されるよう希望します。

記

1. ムラージュ技術は稀有な特技であり、医学会において研究上必要な貴重な模型標本、医学教材の作成に欠くことのできないものであること。
2. ムラージュ技術者は、徹底的写実描画の技法、塑造彫刻の才能を有し、忍耐力の大なる特定の者が長年の実地勉学の後始めて一人前となり得るものであること。
3. 現在全国中に僅か6名の技術者があるに過ぎず、しかも後継者のない状態にあること。

写 文部大臣

人事院総裁

1-60

総発第446号 昭和25年10月17日

内閣総理大臣 吉田 茂 殿

日本学術会議会長 亀山直人

科学者の生活擁護について（申入）

本会議は、去る10月7日の本会議第7回総会の議決に基き、標記のことに対する政府の誠意ある措置を期し、左記のことを申入れます。

現在殆んど大部分の科学者・研究者は生活に追われ、本来の研究を半ば放棄しなければならない状態にある。このことは、わが国の科学の将来のために由々しい事態であると考えらる。

政府は、科学者の生活を擁護し、少なくともある程度生活に煩らわされることなく研究に従事し得るよう特別の考慮を払われたい。

1-61

総発第450号 昭和25年10月23日

内閣総理大臣 吉田 茂 殿

日本学術会議会長 亀山直人

ユネスコ事業計画について（申入）

本会議は、10月5日、本会議第7回総会において左記のことを議決いたしました。

本会議は、このことについて政府の考慮を促し、善処されるよう要望します。

記

第5回ユネスコ総会で採択された1951年度のユネスコ事業計画を検討して、科学及び文化活動を通じて、日本の国際社会への復帰と貢献と強力に推進する措置を講ぜられたい。

1-62

総発第451号 昭和25年10月23日

内閣総理大臣 吉田 茂 殿

日本学術会議会長 亀山直人

国立類研究所の設置について（勧告）

本会議は、10月6日、本会議第7回総会の議決に基づき、政府が国立類研究所を設置することを、左記の理由を付して勧告します。

記

（理由）

わが国は、文化国家でありながら国内に多数の類患者を有する唯一の国である。従つて、この疾病の治療根絶法を研究して、国内の本病を絶滅するばかりでなく、広く保類国にその恩恵を与えることは、まさにわが国の責任である。よつて、政府は速かに国立の研究所を設置して、その研究を拡張・促進する措置を講ずる必要がある。

1-63

総発第452号 昭和25年10月23日

内閣総理大臣 吉田 茂 殿

日本学術会議会長 亀山直人

温泉研究所の設置について（要望）

本会議は、10月6日、本会議第7回総会の議決に基づき、政府におかれては、標記のことについて、左記の措置を講ぜられるよう、要望します。

記

わが国は世界に冠絶した温泉国であつて、温泉の数は約1,000に達し、その泉質と湧泉量の豊富な点は外国に類を見ないにもかかわらず、わが国の温泉に関する研究は、諸外国に比して甚だしく遜色がある。即ち、現在温泉研究機関としては、僅かに小規模な機構のもとに運営されている大学附属温泉研究所等数箇所があるに過ぎず、また厚生省所管温泉治療所は研究の面にはほとんど触れていない。

このような現情に鑑み、治療医学及びこれに関連する物理学、化学、地質学、生物学等を含めた強力な総合研究所を設置する必要がある。少くとも、現在の諸機関の協力を推進する意味において、横の連絡を計り、更に研究を計画、指導する機能を有する一組織の設置が望ましい。

写 文部大臣

厚生大臣